

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.86
12月号
2015 December

今月のことば

かげ
のなま
日向になり

光の当たらないところで支えたり、逆に光の当たるところに立ったりするなど、さまざまな援助をする様子をいいます。「かげ」は「影」のことではありません。



国土館大学教授
北 俊夫先生

「保険」についての指導を

- 「保険」は万一のときに対する備えです。保険は子どもの生活にとって身近であるにもかかわらず、小学校ではほとんど指導されていません。
- お金の使い方のひとつに「保険」があります。金銭教育、金融教育の一環として、小学校での系統的な指導が求められます。

今月の記念日

クリスマス(12月25日)

イエス・キリストの誕生日とされる日として広がりました。ただ、キリストがこの日に生まれたという確証はありません。日本では宗教を問わず、いまでは年末の国民的な行事になっています。

子どもたちに伝えていますか

「保険」と聞くと、私たちは自分の生命保険や火災保険、自動車保険などを連想します。いずれも病気や災害など万一のときのために備えるものです。保険金は契約の内容によって、掛け捨てになる場合もあります。保険に関心をもち、保険の存在や内容を意識するようになるのは、多くの場合社会人になってからでしょう。

実は、子どもたちと「保険」とは深い関係にあります。すべての子どもが独立行政法人日本スポーツ振興センター(平成15年10月に、日本体育・学校健康センターから名称が変更になりました)と学校災害救済の契約を結んでいるからです。学校の管理下において負傷や疾病などが発症したときには、医療費や見舞金の給付を受けることができますようになっています。

実際の事務手続きは、教育委員会が行っています。共済掛け金は、全額あるいは半額を教育委員会が負担しているところがほとんどです。けがなどをしたとき、学級担任や養護教諭は、必要書類を揃えて手続きをとるよう、保護者に助言しています。

ところが、万一に備えて保険に入っていることや、どのような場合に給付され

るのかを、保護者に、あるいは子どもたちに伝えているのでしょうか。

最近、自転車による事故が増えています。ある地域でのことです。自転車の保有者に保険に入るよう勧めたところ、加入者が増え、自転車による事故が減ったそうです。保険に入っていることを意識することが事故の抑止につながっているようです。

小学校の子どもたちにも、けがなどに備えて保険に入っている事実やその目的など保険についての指導を行うことが求められます。

「保険」に対する関心を

私たちはお金をさまざまな目的に使っています。もっとも多いのは、物やサービスなどを買い求める消費という使い方です。そのほかに、お金を預貯金する、投資する、寄付や募金をするといった使い方があります。保険をかけるという使い方方もそのひとつです。

近年、お金や金融に関する教育(金銭教育、金融教育)の一環として、保険について指導することが求められるようになってきました。

金融広報中央委員会は、金融教育の手引書『金融教育プログラム』(平成19年2月)を公表しています。本年このなかに示されていた「学校における金融教

育の年齢層別目標」が全面改訂されました。それによると、「生活設計・家計管理に関する分野」に「事故・災害・病気などへの備え」の項目が新たに付け加えられています。

それによると、小学校低学年では、「身の回りの危険に気付き、安全に生活することの大切さを理解し、行動する」ことを生活科や体育科、道徳科で指導するように示されています。

中学年では、「日常生活には様々な事故や災害、病気に見舞われる可能性があることを理解し、行動することや「事故や災害の防止に関する人々の工夫や努力について理解する」こと、「事故の防止や災害への備えが必要であることを理解する」ことなどが指導事項として示されています。

高学年では、「自転車の運転などを通じて、自分が人にけがを負わせたり、人の物を壊したりした場合の影響を考え、気を付けて行動する」、「修学旅行などでの事故や病気に備えて、保険をかけていることを理解する」こと、「不測の事態に備える方法として貯蓄以外に保険があることを理解する」ことなどが示されています。

関連する教科や学級活動、朝の会などの時間を利用して、これらの事項を指導し、子どもたちに「保険」に対する関心をもたせたいものです。

ほめ言葉のコツは「サ行」

人間はだれでもほめられて悪い気はしません。叱られるより、ほめられる方が嬉しくなります。「やってよかったな」と充実感を味わい、「これから頑張ろう」とやる気が出てきます。人をほめるという行為は、人を成長させる特效薬だといえます。

ほめる行為は具体的には言葉で行われます。元気の出る言葉かけとはどのようなもののでしょうか。

まず、その人の行為にどのような価値や意味があるのかを見だし伝えることです。仮にネガティブなことや欠点であったとしても、見方を変えたり本質をとらえたりして価値づけます。

例えば「〇〇君はいたずらばかりする子だと思っていたんだけど、実は心が優しく、だれにでも親切にしているんだね」といった言葉かけです。

次は、子どもの発言に対するリアクションの仕方です。「でも、これはどうなの」「だって、これはこうだったでしょ」「どうせ、こうだから」といった言い方は、子どもの意欲を阻害します。それを聞いた子どもは心にバリアをつくり、「どうせ、自分は駄目なんだ」と思い込んでしまいます。

まずは「よく頑張ったね」と認め、「これからもその調子でね」と励ますようにします。子どもの育て上手な人は、「さすがだね」「失敗してもいいよ」「すごいよ」「そうだね」など、「さ行」の文字の付いた言葉を発し、子どもを共感的に受け入れ、受容的に接している傾向があります。

子どものいまの状況を受け入れて共感し、そのうえで認めてやること、そしてそれを「さ行」の言葉で伝えることが子育てのコツだといえそうです。

教職員定数に係る緊急提言

中央教育審議会は、平成27年10月28日に「教職員定数の機械的な削減ではなく、多様な教育課題や地域のニーズに応じた確固たる教育活動を行うために必要な教職員数を戦略的に充実・確保すべきである。」との緊急提言を行いました。これは、財務省の財政制度等審議会が子どもの数の減少に連動させて、加配定数を含めて教職員の定数を削減すべきであると提案したことを受けたものです。

中央教育審議会は教職員定数の充実を強く求めている理由に、子どもたちへの指導が近年困難化している状況を

あげています。具体的には、子どもの貧困と教育格差の拡大、特別な指導を必要とする子どもの著しい増加、日本社会への適応に課題のある外国人の子どもへの増加、いじめや不登校、暴力行為など生徒指導上の課題のさらなる深刻化などが例示されています。

また、アクティブ・ラーニングの視点からの指導方法の改善、小学校における英語の教科化をはじめ、わが国の教員は世界でもっとも長時間の勤務を行っていることもあげ、教職員の定数改善の必要性を訴えています。

小学校と中学校の全国の校長会でも、文部科学省や財務省などに教職員定数の削減に反対する要望や要請を行っています。今後も来年度の予算編成の動向を注視していきたいものです。

コラム ものの見方・考え方とは何か(14)

違いを見る一差と多様性

ふたつの関係を見たり考えたりする手だてのひとつに、両者を比べることがあります。例えば算数のテストで、Aさんは80点、Bさんは90点でした。また理科のテストは、Aさんが60点で、Bさんは85点だったとします。この場合、Aさんのことをどのように理解するのでしょうか。

「Aさんの算数はBさんより10点も悪かった」と見るのは、Bさんの点数との「差」に目をつけたものです。80点もとったにもかかわらず、点数の差で優劣や序列を付けているためです。それに対して「Aさんは算数が得意だ」と見るができます。Bさんより悪かったにもかかわらずです。これはAさんの理科の点数との違いに目をつけた言い方です。Aさんという個に焦点を当てた言い

方です。Bさんという他者との差ではありません。

こうした見方・考え方は、子どもは本来多様な存在だという価値観にもとづくものです。個性重視の教育は、一人一人の子どもはそれぞれ違った存在だという子ども観に立ったものです。「個人差に応じた指導」といわれた時期がありましたが、いまでは「個に応じた指導」といわれています。「差」で見ると子どものとらえ方が変わったからです。

ある事象を特徴づけたりクローズアップさせたりするとき、他の事象と見比べることはとても効果的です。ただ事象や人物など対象をとらえ理解するとき、優劣や善悪、上下といった「差(縦軸)」を基準にしがちですが、「多様性」という「違い(横軸)」を導入することにより、また異なった見方・考え方ができるようになります。

INFORMATION

こんなときどうする!
**学級担任の
危機対応
マニュアル**

◎著者 北 俊夫
◎定価 950円+税
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



なぜ子どもに
社会科を
学ばせるのか



A5判 104ページ

言語活動は
授業をどう変えるか



—考え方と実践のヒント—
A5判 112ページ

編集後記

左で紹介している北先生のご著書「学級担任の危機対応マニュアル」は、日常生活における問題場面の対処・解決法や予防策をまとめた、いわば「トラブル発生時の処方箋」です。今号の特集「『保険』についての指導を」とあわせてお読みいただくことをお勧めします。(F記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2015年12月1日